

# NO! リニア

No. 15  
2009年11月24日  
JR東海労働組合  
リニア反対プロジェクト

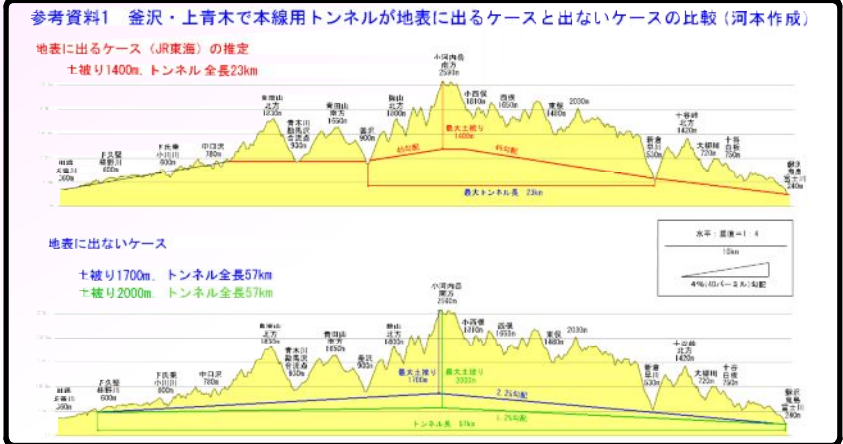
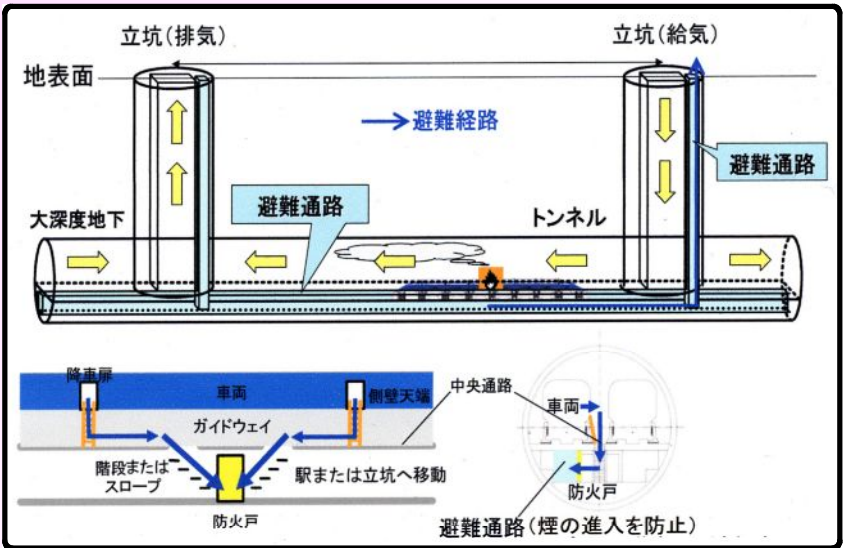
## 乗客はトンネルから脱出できるのか？ JR東海は異常時対策の情報公開をせよ!

リニアはかつてない交通システムであるため、異常時における安全対策は念入りに検討し、かつ情報公開をしなければなりません。

リニアは約80%がトンネルといわれています。すると、列車が緊急停止する場所も、必然的に80%の確率でトンネル内になります。停電、車両火災（リニアはガスタービン発電機及び燃料搭載）、車両故障、地震など、様々な事態に対する安全対策・異常時対応が必要です。特に、乗客を避難・誘導しなければならない事態を考慮し、どのような対策がされているのでしょうか？

超電導磁気浮上式鉄道実用技術評価委員会の報告によると、大深度長大トンネル内に線路の下に避難用地下道と、地上につながる脱出用立坑が設置が検討されています（上図参照）。しかし、山間部、特にアルプス直下では立坑設置は不可能です（下図参照）。

乗客の安全確保のマニュアルが整備されない段階で、開業を公表して良いのでしょうか？ JR東海経営陣の安全意識を疑ってしまいます。乗客はモルモットではありません。



アルプス直下のトンネルは23kmと57kmの2通りが考えられる。いずれも上部は山脈で、地上まで数百m以上。立坑建設は無理。